

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 24053

建築物名称	(仮称)武蔵中原プロジェクト新築工事
建築主	大東建託アセットソリューション株式会社 代表取締役 河西 正人
建築物の所在地	川崎市中原区宮内4丁目695-11、-14、700-7、-8、-10、-11の 各一部、700-9
設計者氏名、建築士事務所名	杉山 功一 大東建託株式会社流通開発横浜支店 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,837.85㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上6階
工事完了予定年月	令和8年5月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)武蔵中原プロジェクト 新築工事
建設地	神奈川県川崎市中原区宮内4丁目695-11、-14、700-7、-8、-10、-11の各一部、700-9
用途地域	準工業地域、準防火地域
地域区分	6地域
建物用途	集合住宅
竣工年	2026年5月 予定
敷地面積	1,224 m ²
建築面積	655 m ²
延床面積	2,838 m ²

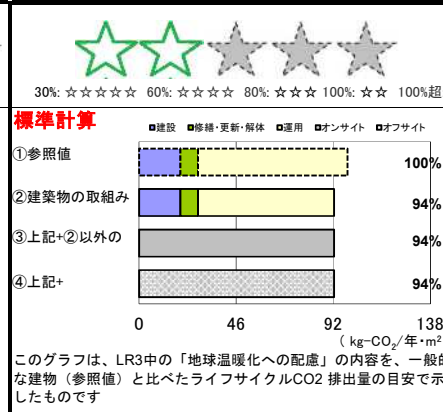
階数	地上6F
構造	RC造
平均居住人員	200 人
年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2025年2月19日
作成者	杉山 功一
確認日	2025年2月21日
確認者	杉山 功一

1-2 外観

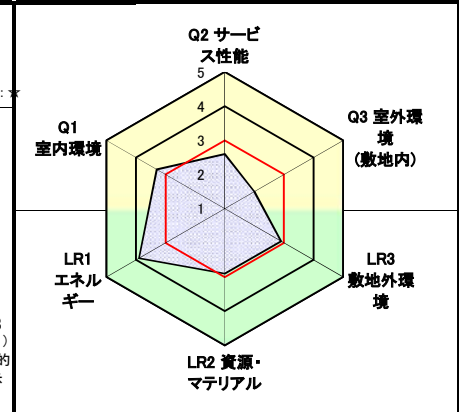
24053

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

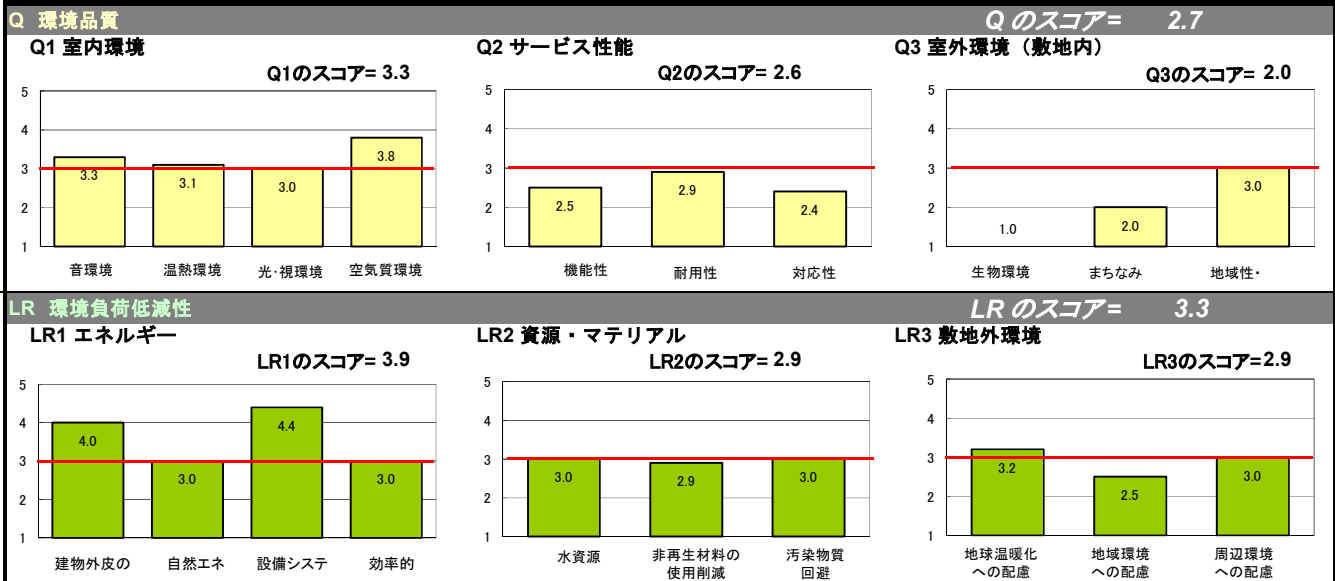
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要			実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計		重点項目への 貢献点 注) (5点満点)	
内訳対応項目		各項目について配慮した内容を記述してください。				
緑の保全・回復(G)			Gの平均点		1.9	
Q-3	■ 室外環境(敷地内)対策					
1	生物環境の保全と創出	特になし				
2	まちなみ・景観への配慮	まわりの景観を意識し配慮に努めた。			1.6/4.3	1.8
3	3.2 敷地内温熱環境の向上	特になし				
LR-3	■ 敷地外環境対策					
2	2.2 温熱環境悪化の改善	特になし			0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)			Wの平均点		2.8	
Q-1	■ 室内環境対策					
2	2.1 2.1.2 外皮性能	等級4相当				
3	3.1 3.1.3 屋光利用設備	特になし			1.6/2.5	3.3
	3.2 3.2.1 屋光制御	特になし				
Q-3	■ 室外環境(敷地内)対策					
1	生物環境の保全と創出	特になし			0.8/2.3	1.7
3	3.2 敷地内温熱環境の向上	特になし				
LR-1	■ エネルギー対策					
1	建物外皮の熱負荷抑制	外皮等級4相当				
2	自然エネルギーの利用	特になし			3.9/5.0	3.9
3	設備システムの高効率化	LED照明を採用し省エネルギーに努めた。				
4	効率的運用	特になし				
LR-2	■ 資源・マテリアル対策					
1	水資源保護	特になし				
2	非再生性資源の使用量削減	部材の再生可能材を採用			2.8/4.7	2.9
3	3.2 フロン・ハロンの回避	特になし				
LR-3	■ 敷地外環境対策					
2	2.2 温熱環境悪化の改善	特になし			0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)			Rの平均点		3.0	
Q-2	■ サービス性能対策					
2	2.2 部品・部材の耐用年数	特になし			0.3/0.5	3.0
LR-2	■ 資源・マテリアル対策					
1	水資源保護	特になし				
2	非再生性資源の使用量削減	部材の再生可能材を採用			2.3/4.0	2.9
LR-3	■ 敷地外環境対策					
2	2.3 地域インフラへの負荷抑制	特になし			0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)			Hの平均点		2.5	
Q-3	■ 室外環境(敷地内)対策					
1	生物環境の保全と創出	特になし				
3	3.2 敷地内温熱環境の向上	特になし			0.8/2.3	1.7
LR-1	■ エネルギー対策					
1	建物外皮の熱負荷抑制	外皮等級4相当				
2	自然エネルギーの利用	特になし			3.9/5.0	3.9
3	設備システムの高効率化	LED照明を採用し省エネルギーに努めた。				
4	効率的運用	特になし				
LR-3	■ 敷地外環境対策					
2	2.2 温熱環境悪化の改善	特になし			0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 2.6

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要			実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。			
建設段階				
Q-2 ■ サービス性能対策				
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	特になし		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階				
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策				
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用	特になし		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	特になし			
運用時のエネルギー				
LR-1 ■ エネルギー対策				
1 建物外皮の熱負荷抑制	外皮等級4相当		3.9/5.0	3.9
2 自然エネルギーの利用	特になし			
3 設備システムの高効率化	LED照明を採用し省エネルギーに努めた。			
4 効率的運用	特になし			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.7
Q1 室内環境							0.40		-	3.3
1 音環境						-	0.15	3.3	1.00	3.3
1.1 室内騒音レベル					—	-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音					—	-	-	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能					住居部 T2採用	-	-	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能					—	-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					—	-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					—	-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音					—	-	-	-	-	
2 温熱環境						-	0.35	3.1	1.00	3.1
2.1 室温制御					—	-	-	3.3	0.50	
1 室温					—	-	-	3.0	0.63	
2 外皮性能		W			外皮等級4相当	-	-	4.0	0.38	
3 ゾーン別制御性					—	-	-	-	-	
2.2 湿度制御					—	-	-	3.0	0.20	
2.3 空調方式					—	-	-	3.0	0.30	
3 光・視環境						3.0	0.25	3.1	1.00	3.0
3.1 昼光利用					—	3.0	1.00	3.4	0.30	
1 昼光率					昼光率2.0以上	-	-	5.0	0.50	
2 方位別開口					—	-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備		W			—	3.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策					—	-	-	3.0	0.30	
1 昼光制御		W			—	-	-	3.0	1.00	
3.3 照度					—	-	-	3.0	0.15	
3.4 照明制御					—	-	-	3.0	0.25	
4 空気質環境						-	0.25	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策					—	-	-	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆建材の積極的な採用	-	-	4.0	1.00	
4.2 換気					—	-	-	3.6	0.38	
1 換気量					—	-	-	3.0	0.33	
2 自然換気性能					居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保	-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					—	-	-	3.0	0.33	
4.3 運用管理					—	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					—	-	-	-	-	
2 喫煙の制御					—	-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.6
1 機能性						2.4	0.40	2.6	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ					—	3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性					—	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応					—	-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画					—	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					—	1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観					—	-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					—	-	-	-	-	
3 内装計画					—	1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理					—	3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					—	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					—	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振					—	3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					—	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能					—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					—	3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			R		—	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔			R		—	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔			R		—	3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			R		—	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			R		硬質塩化ビニル管,耐衝撃性硬質塩化ビニル管使用	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			R		—	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					—	2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備					—	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備					—	2.0	0.20	-	-	
3 電気設備					—	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法					—	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備					—	2.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性									3.0	0.30	2.3	1.00	2.4					
	3.1 空間のゆとり									-	-	1.6	0.50						
	1 階高のゆとり							-		-	-	2.0	0.60						
	2 空間の形状・自由さ							-		-	-	1.0	0.40						
	3.2 荷重のゆとり							-		-	-	3.0	0.50						
	3.3 設備の更新性									3.0	1.00	-	-						
	1 空調配管の更新性							-		3.0	0.20	-	-						
	2 給排水管の更新性							-		3.0	0.20	-	-						
	3 電気配線の更新性							-		3.0	0.10	-	-						
	4 通信配線の更新性							-		3.0	0.10	-	-						
5 設備機器の更新性							-		3.0	0.20	-	-							
6 バックアップスペースの確保							-		3.0	0.20	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															-	0.30	-	-	2.0
1	生物環境の保全と創出				G	W		H	-	1.0	0.30	-	-	1.0					
2	まちなみ・景観への配慮				G				-	2.0	0.40	-	-	2.0					
3	地域性・アメニティへの配慮								-	3.0	0.30	-	-	3.0					
3.1 地域性への配慮、快適性の向上								-	3.0	0.50	-	-							
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H	-	3.0	0.50	-	-							
LR 建築物の環境負荷低減性															-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー															-	0.40	-	-	3.9
1	建物外皮の熱負荷抑制					W		H	等級4相当	4.0	0.20	-	-	4.0					
2	自然エネルギー利用					W		H	-	3.0	0.10	-	-	3.0					
3	設備システムの高効率化					W		H	BEI値0.88	4.4	0.50	-	-	4.4					
4	効率的運用								-	3.0	0.20	-	-	3.0					
集合住宅以外の評価								-	-	-	-	-							
4.1 モニタリング					W		H	-	3.0	-	-	-							
4.2 運用管理体制					W		H	-	3.0	-	-	-							
集合住宅の評価								-	3.0	1.00	-	-							
4.1 モニタリング					W		H	-	3.0	0.50	-	-							
4.2 運用管理体制					W		H	-	3.0	0.50	-	-							
LR2 資源・マテリアル															-	0.30	-	-	2.9
1	水資源保護					W	R		-	3.0	0.20	-	-	3.0					
1.1 節水								-	3.0	0.40	-	-							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								-	3.0	0.60	-	-							
1 雨水利用システム導入の有無								-	3.0	1.00	-	-							
2 雑排水等利用システム導入の有無								-	3.0	-	-	-							
2	非再生性資源の使用量削減								-	2.9	0.60	-	-	2.9					
2.1 材料使用量の削減					W	R		-	2.0	0.10	-	-							
2.2 既存建築躯体等の継続使用					W	R		-	3.0	0.20	-	-							
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					W	R		-	3.0	0.20	-	-							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					W	R	陶磁器タイル	-	3.0	0.20	-	-							
2.5 持続可能な森林から産出された木材					W	R		-	3.0	0.10	-	-							
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					W	R		-	3.0	0.20	-	-							
3	汚染物質含有材料の使用回避								-	3.0	0.20	-	-	3.0					
3.1 有害物質を含まない材料の使用								-	3.0	0.30	-	-							
3.2 フロン・ハロンの回避								-	3.0	0.70	-	-							
1 消火剤					W			-	-	-	-	-							
2 発泡剤(断熱材等)					W			-	3.0	0.50	-	-							
3 冷媒					W		CO2冷媒冷凍機	-	3.0	0.50	-	-							
LR3 敷地外環境															-	0.30	-	-	2.9
1	地球温暖化への配慮					W			ライフサイクルCO2:94%	3.2	0.33	-	-	3.2					
2	地域環境への配慮								-	2.5	0.33	-	-	2.5					
2.1 大気汚染防止								-	3.0	0.25	-	-							
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W		H	-	2.0	0.50	-	-							
2.3 地域インフラへの負荷抑制								-	3.0	0.25	-	-							
1 雨水排水負荷低減						R		-	3.0	0.25	-	-							
2 汚水処理負荷抑制						R		-	3.0	0.25	-	-							
3 交通負荷抑制						R		-	3.0	0.25	-	-							
4 廃棄物処理負荷抑制						R		-	3.0	0.25	-	-							
3	周辺環境への配慮								-	3.0	0.33	-	-	3.0					
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								-	3.0	0.40	-	-							
1 騒音								-	3.0	1.00	-	-							
2 振動								-	-	-	-	-							
3 悪臭								-	-	-	-	-							
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制								-	3.0	0.40	-	-							
1 風害の抑制								-	3.0	0.70	-	-							
2 砂塵の抑制								-	1.0	-	-	-							
3 日照阻害の抑制								-	3.0	0.30	-	-							
3.3 光害の抑制								-	3.0	0.20	-	-							
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策							広告物照明なし	-	3.0	0.70	-	-							
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								-	3.0	0.30	-	-							

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		-	-	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		-	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	2.0		-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0		-	1.0	-	2.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	4.0		1.0	-	-	-	2.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC0.5 窓の日射熱取得率(η) -

U値(W/m2K) 窓システム 4.0 屋根 2.0 外壁 2.0 床 2.0

住戸部分システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -

透光率 3.2%

自然換気有効開口比 0.0%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース 6.0㎡/人 病床 8.0㎡/床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 30.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.5 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 25 年

2.2.2 外壁仕上材の補修必要間隔

想定必要間隔 20 年

2.2.3 主要内装仕上材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 2.76 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 77.8%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 4000 N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 53% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 47% 水平投影面積率 8% 地表面対策面積率 29% 舗装面積率 0%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m - 日射等性能等級 等級4 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡

採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0%

通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI_m 非住宅 - 住宅 0.88 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 陶磁器タイル エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 5.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(CFC) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(CFC) 0 地球温暖化係数(GWP) 1430

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(CFC) 0 地球温暖化係数(GWP) 8

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 135% 棟間隔指標Rw 0.10

地表面対策面積率 42.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%

見付面積S_b 388㎡ 越風向と直交する最大敷地幅W_s 31.011 m 基準高さH_b 9.2266 m

緑地 199㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡